

UCA 時代の実践者への応援

株式会社賢嶺 名前 山岡哲也

「タイパ」という言葉をご存じでしょうか？

「タイムパフォーマンス」の略語で特定のタスクや作業をいかに効率よく実行するかを指す言葉です。映画や動画を 1.5 倍で観ている若者のニュースを聞いたことのある方もいるのではないのでしょうか。

また、残業が厳しく規制され、またハラスメントの啓発などにより、職場労働環境は以前よりもよくなっています。しかし、職場での労働時間が厳しく規制されながら同じ業務量をこなす必要があるにもかかわらず、業務の進め方は従来のやり方を継続しているところが多く見られます。

このような内外部の環境に対応すべく、監督者の方々は先頭を切った行動が求められていると痛感されているのではないのでしょうか。

自分が思うように業務を進めることができないことも多く、判断をするにも不確定要素が気になることで判断をすることに躊躇することもあると思います。

本研修は、自分がなすべきことをご自身で具体化できるように応援する内容です。講師の「べき論」を受け身で聞くのではなく自身で考え、自分で答えを探すので大変です。

実践者である監督者に学んでいただきたいことは数多くありますが次の3つが重要です。3つある監督者に求められることで一番大切なのは、価値観の醸成と考えています。一般的な社会の判断基準や職場の常識に基づく価値観をベースに、自身の経験や学んだことから自分独自の新しい価値観を醸成していくことが大切です。

そのためには、職場の同僚だけではなく、他の自治体の職員や異業種の人との出会いが欠かせません。本研修のような集合研修に参加できるのであれば、できる限り多くの参加者と話をすることで、仕事やプライベートの悩みや前向きな気持ちの共有をしてほしいです。

2つ目に求められることは、率先して行動することではないのでしょうか。

自身の価値観を醸成し VUCA と呼ばれる不確実性が高く複雑であいまいで将来の予測が困難な状況下においても地域住民のために何が必要で何ができるかを自身で見出し、進んで実行できるようなリーダーシップを発揮できる人材になってほしいと思います。

3つ目に求められることは、情報を収集し共有化することと考えます。

今までの価値観や常識を尊重しつつ、新しい情報を収集しメンバーと共有することで組織にポジティブで建設的な変化をもたらす存在になってほしいと思います。

以上3つの求められることを実践していくには仲間が必要ではないのでしょうか。本研修に参加することでその仲間を作り、自分にできることを具体化していただければと思います。



三重県津市出身。京都大学工学部卒。同大学院工学研究課修士過程修了。専門は、鉄筋コンクリート構造学。卒業後、大手ゼネコンに入社するが、2年弱で退社。

その後、「自ら自分の仕事を創る」と志し、衆議院議員選挙の選対本部への参加から、ラーメン店の店舗開発・運営、大手訪問販売の営業を経て、管理職に求められる行動やモチベーション維持の大切さ、組織内コミュニケーションの重要性を知る。通算 1000 回を超える研修講師の経験を踏まえ、「人」と「組織」を軸とした組織マネジメントや人材育成などのセミナーのプランニングから登壇までを行いつつ、大手企業や官公庁から中小企業まで幅広い組織において人材開発・組織開発・事業マネジメントに関する専門的コンサルティングを精力的に行っている。